伊藤 大生（筑波大学 人文社会学研究科歴史･人類学専攻）

「明治期における大衆の蜜柑の消費と需要」

1．研究の目的と方法

今日，蜜柑は香りや甘みが好まれる嗜好品として認識されている。蜜柑は香料として利用されるほか，冬には炬燵に入って蜜柑を食することで味や香りを季節感とともに愉しむ。現在蜜柑とよばれているものの大半は温州蜜柑であり，明治期に普及したものである。これは種子がなく果実が大きいのが特徴である。明治期以前は，現在小蜜柑とされているものが，いわゆる蜜柑として一般的に認知されていた。小蜜柑は種子を包含し，果実が小さい特徴がある。小蜜柑は江戸前期において，武家の間で用いられる高級贈答品であったが，江戸中期には大衆食品化したとされる［塚本1984］。

温州蜜柑は，15世紀には存在が知られていたが，種子がないのに果実が肥大することが理解できなかったために種子がない（無核である）ことが忌み嫌われたとされる［松村2007］。しかし花木宏直によれば，現在の和歌山市街に住んでいたかつての富裕層は，近世後期には温州蜜柑を子どもの菓子として消費していたという。また同時期において，小蜜柑を歳暮をはじめとした贈答品や正月飾り，祭礼に用いるとともに，皮を薬として用いたという［花木2010］。

温州蜜柑の普及は明治20年以降急速に進むこととなるとされる。それは明治政府や柑橘栽培地域において，無核を好まないという文化的価値観をもたない海外市場が注目されるとともに，海外輸出向けの温州蜜柑栽が盛んに行われ，次第に国内にも普及したためであるという［豊田ほか2018］。

以上のように，明治期以前において小蜜柑と温州蜜柑が共に存在したにも関わらず，明治期以前は小蜜柑が一般的であり，明治期以降，特に明治20年以降は温州蜜柑が日本に普及することとなった。しかし，無核として好まれなかった温州蜜柑が大衆の消費・需要を満たし，受容されていくのは明治期のいつ頃か，そしてその背景について，依然として不明瞭であるといえる。本研究はこの点を当該時期前後の文字資料を主に用いて検討する。この点を検討する事は，現在の嗜好品としての蜜柑の成立過程を明らかにするとともに，近代日本における温州蜜柑産地の形成という地理的事象の解明において，新たな知見を提示する学術的意義をもつ。

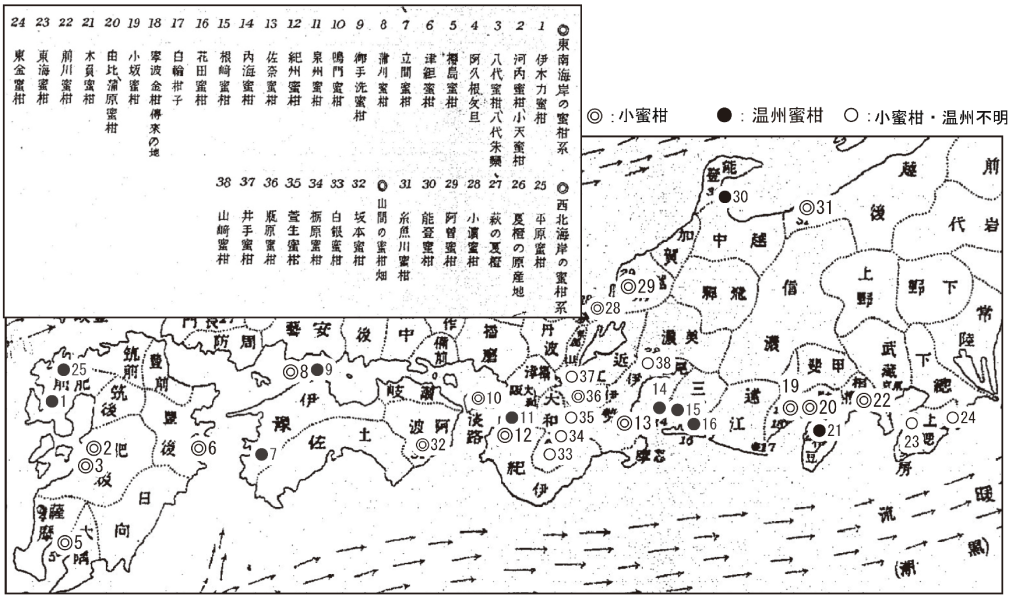

図1　明治30年頃の蜜柑産地

（［豊田ほか2018］に掲載の図を一部改変。原図は『日本の蜜柑』〈安部熊之輔著・発行,1904年〉に掲載）

2．明治期における大衆の蜜柑の消費と需要

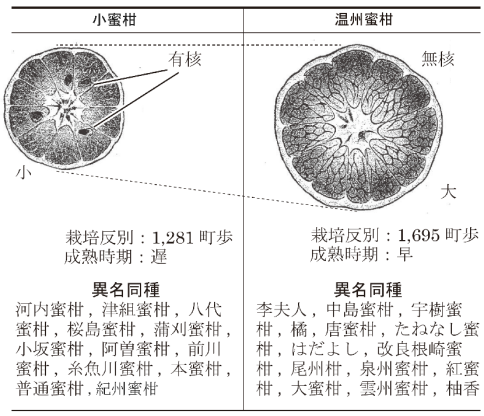

図2　蜜柑の種類と特徴
（［豊田ほか2018］に掲載の図を一部改変。
原図は『日本の蜜柑』に掲載）

○小蜜柑の消費と需要

「果物雑誌」19巻5号（1913）：新春の宴，婚家葬祭の席，晩餐，歳末年始の贈答品，菓子・薬品の材料

→生食のほか，種や皮も薬として消費していた。

→橙から子孫繁栄も連想される。

○消費と需要の変容－温州蜜柑の普及前夜－

『紀州伊都郡柑橘案内』　：無核であるため祝祭等に用いられず，市場の歓迎を得なかった

（木村錠之介編,1912）　→明治初年の頃より風味優良であることが認められ需要増加

『柑橘案内』　：温州橘の如き無核性のものは核無しと称し吉事慶席に使用するを忌む

（堀内仙右衛門編,1912）　販路極めて狭く，子孫友侶が娯用の会食に用いる他顧みる者なし

東京市場等において温州は「核無し者は不吉なり」と伝承され顧客なし

→一度口にするものはその美味甘漿忘るる能わず漸次顧客増加

・温州蜜柑が種がないため忌避されるも，明治初年以降普及する傾向は静岡県庵原郡や熊本県八代郡高田村にもみられる（「農業世界」2巻13号〈1900〉，［御前2000］）。

⇒明治初年を境に，大衆の需要が祝祭・吉事慶席での使用から，味や風味への好みへと重点が変化

3．課題

①牛鍋の普及と比較検討＝日本人と異なる文化的価値観をもつ外人から日本人に普及［野間2006］

→幕末・維新期における外人の温州蜜柑の消費について追求する必要がある。

②五人組など，明治期以前の地域間連帯組織との関係

→無核が「不吉」である理由が子孫繁栄を意味しないためと仮定すると，五人組などに基づく地域間連帯を維持するための機能として小蜜柑の贈答が味覚に優先される必要があったと考えられる。

【主な参考文献】

塚本学「江戸のみかん―明るい近世像―」『国立歴史民俗学博物館研究報告』4,29-54,1984

松村祝男『果樹作と庶民と地域の近代化―河内みかん発達史―』古今書院,2007

花木宏直「近世後期～明治前期における柑橘品種と需要―和歌山市街及び周辺地域を事例に―」『地理空間』3-2,96-112,2010

豊田紘子・小口千明・伊藤大生・山下史雅・鈴木修斗・佐藤壮太・川添航・鈴木秀弥・野場隆太「明治期日本における温州蜜柑の普及と在来小蜜柑からの嗜好変化」『歴史地理学野外研究』18,筑波大学人文社会科学研究科　歴史人類学専攻　歴史地理学研究室, 21-84,2018

御前明良「全国のみかん栽培史と江戸時代の有田みかんの流通」『経済理論』294,77-95,2000

野間万里子「近代日本における肉食受容過程の分析―辻 売，牛鍋と西洋料理―」『農業史研究』40,77-88, 2006